
マイナー12名山 その1

会津 会津朝日岳→丸山岳→窓明山

白井達也

●メンバー L 斎藤(亘)・白井

今年のチャレンジ第一弾は、亘さんの10年来の懸案、会津の秘境丸山岳です。

丸山岳へのアプローチとしては、会津側から大幽沢を詰めるルート、奥只見側からメルガ又沢または北沢を詰めるルート等ありますが、今回はGW5連休を利用しての残雪尾根縦走で挑戦することにしました。また、三岩岳からキャンプを伸ばしての頂上ピストンも考えましたが、途中天候悪化の可能性も考慮し、距離的により近い会津朝日岳から入山することに決定しました。

●2015年5月2日(土) 晴れ

●コースタイム

会津朝日岳登山口9:45→いわなの里
10:30→叶の高手取付尾根下12:00→人見
の松14:45→叶の高手15:25→熊ノ平避難
小屋16:15

累積標高+1140m -240m 距離10km

歩程6時間30分(休憩含む)

大宮駅に6時20分集合で上越新幹線
とき301号に乗車。浦佐・小出を経て、
越後駒ヶ岳など新潟の山々を眺めながら、
只見駅に9時15分に到着です。

駅からは予約しておいたタクシーに乗
車し、白沢のいわなの里までと行き先を
告げると、タクシーの運転手さんは怪訝

そうな顔。林道は通行止めで入れません
とのこと…。到着すると確かにパイロン
が立っていて工事車両以外は通行止め
です。登山口の標柱の隣には、登山道崩壊
のため登山禁止の看板も。運転手さんの
気をつけての声を背に出発しました。

登山口からいわなの里までの林道は、
工事現場まで舗装・除雪されていて、な
んと足立ナンバーの乗用車が1台止まっ
ています。タクシーもここまで入ってく
ればいいのにと恨み言を言いながら先
を急ぎます。

いわなの里はやはり洪水の影響で休業
していて、誰もいない小屋の壊れた水道
パイプから水が噴出しています。おまけ
に屋根のつぶれた自動車が2台放置され
ていて、まさにゴーストタウンです。



ここから先はまだ雪もたっぷり残って
いて先行者の足跡を追って行きますが、
夏道が左岸に渡るところは橋がない上に

雪解け水で増水していて渡れません。仕方なく右岸の雪の斜面を高巻いて、上流のスノーブリッジを利用して渡ります。夏道は枝沢を右に分けるあたりまでは拾っていけますが、その先は雪に埋まった沢を登って行きます。赤布はありません。左岸の山肌はいたるところで崩れていて、夏道崩壊はこのあたりではと思われます。

しばらく行くと沢は開けて、正面の尾根の上方に松のような木が見えます。さらに尾根を目指して登って行くと、雪に埋まった枯れ木に赤布がついていました。ここで正解のようです。尾根は藪を避けながらの急登で、おまけに山行初日の荷物は重く、無雪期 1 時間の行程に倍以上時間がかかってしまいました。

人見の松からは展望が開けてきて、眼下には後続パーティーの姿も小さく見えます。さらに登ると尾根は荒秃山に続く稜線に合流し、叶の高手はもうすぐです。ここで朝日岳から下山してきた男性 4 人パーティーとすれ違いました。話を聞くと工事現場手前の駐車スペースに止まっていた足立ナンバーの車の人たちです。昨日現場の人に断り車を止めて、今日ピストンとのこと。年配の方々とお見受けしましたが、なかなかお元気です。

叶の高手につくと、ようやく会津朝日岳の山頂とご対面です。今日泊まる避難小屋も見えているはずなのですが、逆光のためよく見えません。とりあえず踏み跡を追って雪面をトラバースして行くと、ひょっこり小屋の前に飛び出しました。

小屋は思ったより広く、8 人位は入れそうです。早速水を作り小屋の玄関先で

食事。そうこうしているうちに、後続パーティーは叶の高手下の雪面にテントを設営。今日は我々だけで小屋を占領です。明日の長丁場に備え早めに就寝。大きな月が空にかかっていました。

● 2015 年 5 月 3 日(日) 快晴

● コースタイム

熊ノ平避難小屋 5:20 → 会津朝日岳 6:20 → 1610m 高点 8:10 → 1467m 高点下 11:00 → 大幽朝日岳 12:45 → 1552m 高点下 幕営地 16:15

累積標高 +900m -760m 距離 7km

歩程 10 時間 55 分(休憩含・藪漕ぎ約 9 時間)

今日も天気は快晴。今日は丸山岳を越えて、高幽山付近まで足を伸ばす予定ですが・・・。背に朝日を浴びて出発です。バイウチノ高手を過ぎ、急登しばしで会津朝日岳の最高点に到着しました。



会津朝日岳の頂上は視界をさえぎるものなしの大展望です。南には真っ白な雪をつけた丸山岳もよく見えます。ただそこに到る稜線には雪はありません。ある程度の藪漕ぎは覚悟の上ですが・・・。
(三角点は北の端っこにあります)

山頂から少し下ると、すぐに藪漕ぎ開始です。アイゼンを着けているので、枝に乗ったり跨いだりは一苦労です。いいかげんいやになって、左下の雪面を使い、鋸刃を巻いて分岐の1610m高点まで行こうと急な雪面をトラバースしたところ、足場が崩れて滑落。幸いピッケルで止まりましたが、荷物が重いのでヒヤリとさせられました。結局巻いては行けない事がわかり(先は急な草付スラブでした)岩稜を登り返して主稜線に復帰します。

1610m高点は頂上付近に雪が残っていて、広口ボトルに雪を詰めて水の補給をすることができました。(6分目位水を残して雪を詰めるのが効果的です)ルートミスで余計な時間を使ってしまったため後続の4人パーティーに追いつかれてしまいました。(男性2人・女性2人)ここからはアイゼンを外して、本格的に藪漕ぎモードに突入です。

丸山岳に向かう昔の縦走路はかるうじて痕跡をとどめていますが、小灌木が縦横に枝を伸ばし、特に石楠花は強力で、通過に多大な時間と体力を消費します。加えてこの日は気温・湿度ともに高く、長袖のインナー1枚でも文字通り汗が噴き出すありさまで(メガネの内側が汗の塩で白く曇ってしまった)日焼け止めクリームが汗に混じって眼に入ると痛いこ

と痛いこと。大変な消耗戦となりました。

2時間半ほどの藪漕ぎで、大幽朝日岳手前の1467m高点下の雪田に到着。ここは平らで日陰もあり、まさに藪の中のオアシスです。次のピーク大幽朝日岳は、会津朝日岳と丸山岳のちょうど中間ぐらいの位置ですが、いまだ到着できません。このペースでは高幽山まで行くのは夢のまた夢です。明日は天気が下り坂なので出来るだけ足を伸ばしておきたい所ではありますが、目標を丸山岳の肩付近に切り替え、水を補給して出発しました。

1時間半かけてたどり着いた大幽朝日岳は三角錐の藪ピークで、南側に雪が残っていました。頂上には三角点があり、丸山岳が大きく見えています。雪は頂上から肩の下あたりまでで、そこまでの尾根で雪が使えるのは1・2ヶ所。あと藪ピークを三つ越えれば到着できそうです。



藪を漕ぐ事3時間。ようやく頂上に続く残雪の末端に到着しました。日はだいぶ西に傾いています。ふと上を見ると稜線上に黒いシルエットの3人パーティーが見えます。今日は丸山岳付近で張るのでしょうか。さすがマイナー12名山の中ではポピュラーな丸山岳。結構人が入っています。ここから約30分、急な雪面をキックステップの連続で、ようやく天場適地に到着しました。二人ともほとんど疲れてテントを張るのもやっとです。

しばらくすると後続4人組みのうち3人が到着して、我々より一段上の雪面にテントを張ります。その後、残りの一人(女性)も到着しましたがだいぶお疲れのご様子。ここまで入ってしまうと行くも地獄、戻るも地獄でどちらも大変です。

結局この日は晩飯もあまり喉を通らず、酒も進まずバツパリ寝てしまいました。

●2015年5月4日(月) 晴れのち雨

●コースタイム

1552m高点下幕営地6:15→丸山岳の肩
1736m高点7:20→丸山岳8:10→梵天岳
10:30→高幽山12:15→高幽山下幕営地
12:27

累積標高+850m -680m 距離9km

歩程6時間30分(休憩含む)

朝4時半起床。寝過ごしたうえに昨夜は水も作らず寝てしまったので、行動食+コーヒーorスープの簡単な朝食で出発。(4人組はすでに出発した後)出がけに丸山岳から降りてきた人とことばを交わしましたが「この先は快適」とのこと。丸山岳登頂に期待が膨らみます。

ゆるやかに尾根上のこぶを越え、一旦下って丸山岳の肩に続く急な尾根に取付きますが、またしてもブッシュが出ていて快適とはいえない藪漕ぎになります。ようやく藪を抜けると丸山岳の肩に到着。ここで初めて燧ヶ岳のきれいな双耳峰が目に見え込みました。

ここまで来れば山頂はもう目と鼻の先です。ゆるやかな雪面を登って行くと、まあいい山頂にいずれの先行者が残したものか小さな小さな雪のケルンが作ってあって、これまた可愛い木製の手作り山名板が乗っています。



どこから登っても遠い丸山岳の山頂に、ようやく到着です。巨さんと感動のハイタッチのあとは、青空の下、存分に展望を楽しみました。北に目をやれば、長く続いた稜線の先に会津駒ヶ岳が黒々とした岩肌を見せ、その後ろには御神楽岳。

その奥の高みには白い飯豊の山々が浮かんでいます。西には越後の山々がずらりと並び、3年前の春に登った未丈ヶ岳の真っ白な山容も真近かに見えます。南に目を転じれば、これから越えて行く梵天岳・坪入岳・窓明山。その右にはすこし高く三岩岳。更に縦走終了点の会津駒ヶ岳が緩やかに並んでいます。



いつまでも見飽きない景色ですが、やはり天気は下り坂。南のほうから雲が湧いてきています。昨日とは違って風も冷たいので、早々に頂上をあとにしました。

ここから稜線は大きく「コ」の字型に屈曲し、梵天岳へと続いています。たっぷり雪のついた尾根の穏やかな上り下りは、山スキーでも十分楽しめそうです。

快調に歩を進め2時間ほどで梵天岳を通過、さらに2時間弱で高幽山に到着しました。ここまでは今回の山行で最高に快適な時間を過ごすことが出来ました。目指す会津駒ヶ岳が一段と大きくなってきます。明日の目処をつけるためにも、なるべく先に歩を進めておきたいところではありますが、高幽山の下りでついに雨が降ってきました。樹林の出ているコルまで急いで下り、天場を捜します。

すると深さ5～60cmの大きなツリーホールを発見。これなら風は防げそうです。早速テントを張って暫時休憩。まだ1時過ぎですが、行動食をつまみに酒を片付けます(荷物を軽くするためです!)。そのまま晩飯になだれ込んでとっとと寝てしまいました。夜9時ごろから風雨強く、テント内に雨漏り多数発生。(フライが十分張れなかったため)

- 2015年5月5日(火) 朝曇りのち快晴
- コースタイム

高幽山下幕営地6:50→坪入岳9:55→窓明山11:40→家向山隣のピーク13:50→窓明山登山口(小豆温泉付近)15:30

累積標高+940m -1870m 距離13km

歩程8時間40分(休憩含む)

朝、目が覚めると外は深いガスの中で天気待ち。テントの中も水溜りだらけで、出発までにずいぶん時間がかかってしまいました。それでも周りが明るくなるにつれガスも薄くなり、勇躍出発です。

雨で緩んだ雪稜は、所々藪が出ていますが概ね北側を巻くことができ、快調に歩を進めることができます。坪入岳手前の1754m高点に到着する頃には、空はすっかり晴れ渡り、空気もひんやりとして上々のコンディションになってきました。すると後のほうから「おーい」とコールが聞こえます。振り返ってみると、昨日追い抜かれた先行4人パーティーです。丹念に藪を漕いで来たのでしょうか?。コールを返して先行します。

左右の切れた雪稜を越え、展望の無い坪入岳を通過して少し下ると尾根は広が

り、天場に最適な坪入田代に到着です。昨日ここまで来ていれば、会津駒ヶ岳まで行くことも可能でしたが、どうやらそれは無理な状況です。本日別働(燧・駒)隊と檜枝岐の宿で合流するために、大変残念ではありますが、次の窓明山を今回の縦走終了点とすることにしました。

窓明山への登りは藪交じりでしたが、これが最後と気力で頑張り、なんとか昼前に山頂に到着しました。天気は快晴、風も弱く、来し方には4日間かけて縦走した山々が、打ち寄せる波頭のごとく白く輝き、その真ん中に大きく丸山岳の姿も見えます。言葉にならない感動の嵐！まさに絵に描いたような大団円です。

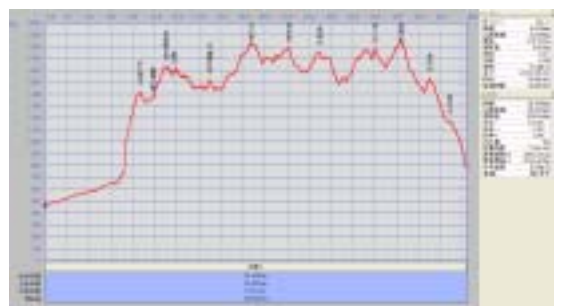
ここからの下山は三岩岳避難小屋のほうには向かわず、主稜線を離れ東に続く家向山への尾根に乗って、小豆温泉付近を目指します。この尾根は雪も豊富でスキーも楽しめそうです。途中尾根を外れて大雪面の長いトラバースを楽しみ？ながら(雪崩れたら・・・ちょっと緊張)コルに到着。家向山を巻く登山道を探しますが、見つかりません。結局頂上への登山道を登りましたが、もう登りは無いと思っていたのでちょっとガックリ。ここからは南東に伸びるゆるやかな尾根を下り、15時30分無事下山完了いたしました。

● 2015 年 5 月 2 日(土)～5 日(火)

トータル距離39km

累積標高+3860m -3550m

歩程32時間35分(休憩含む)



P S

一刻も早くビールが飲みたかったので、別働隊隊長(整紀さん)に予約して頂いた宿(尾瀬野)に迎車を依頼しましたが、快く車を出していただき大変助かりました。感謝！